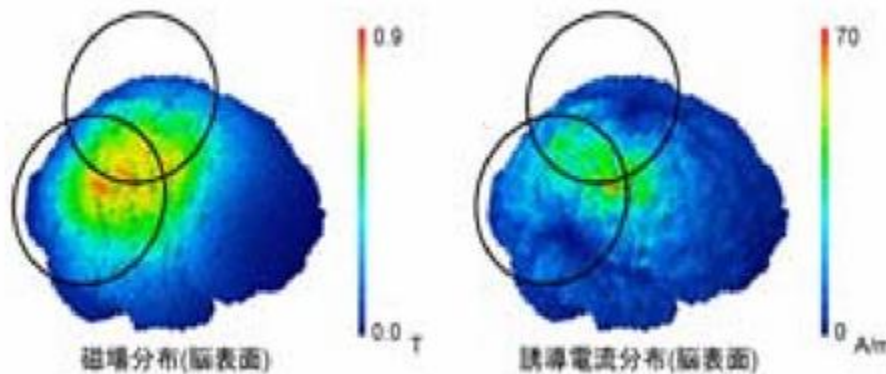


1998:東大 上野らによる変動磁場が生体に及ぼす影響についての研究



東大 上野教授らは、ヒトの脳の表面に8字コイルをおいてパルス磁界により大脳皮質のみに渦電流を誘起させ、高い分解能で脳神経を刺激することに成功した。図は8字コイルによる刺激磁気分布(左図)とそれによって誘導された電流分布(右図)を示す。MRIの変動磁場の安全性の研究にも利用されている。

図は、上野教授の研究報告 (http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/12_kiban/c_gaiyo19/sum06_ueno.pdf) 「磁気的手法によるバイオイメーシングと脳機能ダイナミックスの研究」より転載。